

## — 導入 —



聖書は、神の御言葉が地の果てまで伝えられるために、もっと働き人と訴えています。収穫は多いが、働き手が少ないのです（マタイ9：37）。「地上のみ業は、わが教会の名簿にある男女が仕事に集まってくるまでは、決して終わることができない」と言われています（『クリスチヤンの奉仕』、p.68）。全員が必要なのです。

このいきいき弟子講座は、あなたの教会を信徒伝道者の訓練学校に変えるためのものです。この教材を通して、今まで数千という人が聖句を効率的に覚え、実生活に生かし、他の人に伝えてきました。この教材をあなたも利用してみませんか。

## 第1章 起爆力の公式

ここ数年、伝道の進展は見られるものの、何かが欠けているようです。初代教会を見ると、今日の私たちにはない起爆力を感じます。1世紀の信者たちは、エルサレム中に自分の教えを広めるだけでなく、ユダヤから離散して行った人々も、福音を告げ知らせながら巡り歩き、世界中を揺り動かしたのです（使徒言行録5：28、8：4、17：6）。しかも、このすべてを1世代で達成したのです。

もしほんとうにみ業を私たちの時代に完結したければ、私たちも初代教会の起爆力を何とか取り戻さなければなりません。彼らの力の秘密を再発見しなければなりません。

### 1-1 パウロの場合

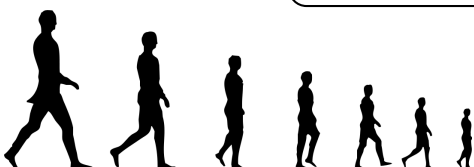
一緒に古代都市エフェソに来ていると想像してください、使徒パウロが街の門を大またくぐり、伝道を始めるところです。「パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした」（使徒言行録19：8）。パウロは定石通り、会堂で連続伝道集会を開始しました。伝道は第1段階でした。

しかし第2段階を見てください。「しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた」（使徒言行録19：9）。論争が起こり、パウロは信者たちを別の拠点へ移動させました。この場合は公立大学のキャンパスでした。すぐさまここが、エフェソでのパウロ陣営の本拠地になりました。

ではその結果を見てください。「このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった」（使徒言行録19：10）。本拠地を立ち上げてからわずか2年以内に、その地域一帯のだれもが福音を聞いたのです。彼らはその地方の伝道を完成させました。

注目したいのは、アジア州に御言葉を広めたのはパウロではなかったということです。彼は毎日ティラノの講堂にいました。パウロはキャンパスを訓練学校に変え、信徒伝道者を周囲の町々に送り出しました。パウロは信徒を養成し、送り出し、人々に到達させるために忙しくしていたのです。その結果が爆発的な伝道の進展となりました。ここに公式があります。

伝道 + 訓練 = 起爆力（爆発）



## 1-2 ペンテコステとその後

同じようなことはエルサレムでも起こりました。ペンテコステの聖霊降下の時すばらしい説教がなされ、そして「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」（使徒言行録 2：41）。伝道講演会のもっともよい状態です。しかし次の聖句を見てください。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」（使徒言行録 2：42）。

ここでも、伝道には訓練が続いていたことがわかります。結果はどうだったのでしょうか？ 教会は毎日に成長しました（使徒言行録 2：47）。やがて家々で（使徒言行録 5：42）イエス・キリストについて語られるようになりました。さらに、「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った」「さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた」（使徒言行録 8：1、4）。新しくバプテスマを受けた信者たちは爆発的に周囲の町々に出て行き、その先々で魂を勝ち取りました。伝道は訓練と結合して、爆発を生み出しました。

## 1-3 主要戦略

伝道と訓練との結合戦略は、まさに主の至上命令に見られるものです。イエス・キリストは昇天の前に、特別な命令をお与えになりました。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ 28：19、20）。

弟子訓練には2つの部分があります。第1に伝道——福音の物語を告げ、決心を訴え、キリストに従うことを選んだ人にバプテスマを授けること、第2に訓練——新しい信者に、イエスが命じられたことを守るように教えることです。主の至上命令を成就するために、私たちは両方を行わなければなりません。

## 1-4 現実の姿は

今ほとんどの教会の現実の姿は、私たちが足りないことを表しています。伝道も充分とまではいきませんが、訓練学校はどうでしょう？ まったく存在しません。次のように勧告されています。「わが民に与えることのできる最大の助けは、彼らに神のために働くこと……を教えることである。教会員に教会を築くために働く方法を教えるように、……よく組織された計画がなくてはならない。どうして始めるかを教えられさえすれば多くの人々は喜んで働く。彼らには教えと励ましが必要である。すべての教会がクリスチャンの働き人を養成する学校でなければならない」（『クリスチャンの奉仕』、p.79-81）。

あなたの教会はどうでしょうか。教会員を養成していますか？ 弟子として、神の御言葉にかたく立つように訓練していますか？ 出て行って他の人々を勝ち取るように教えていますか？ あなたの教会は爆発的に成長していますか？ もしそうでなければ、教会を信徒伝道者の訓練学校に変えることを、祈りのうちに考えてください。

## 第2章 確かな土台

ひとたび訓練を立ち上げることの重要性が分かると、すぐに疑問が起こります。何を教えたらいいのでしょうか。新約時代のような実を今日得るためには、どのような訓練をすればよいのでしょうか。前述のエフェソの訓練が手がかりを与えてくれます。「このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった」（使徒言行録 19：10）。パウロは2年間ティラノの講堂で、人々が聖書を分かち合えるように指導しました。同じ理念が使徒言行録全体に見られます。「散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた」「神の言葉はますます栄え、広がって行った」「主の言葉はその地方全体に広まった」「パウロとバルナバは……教え、……主の言葉の福音を告げ知らせた」（使徒言行録 8：4、12：24、13：49、15：35、19：20）。明らかに、初代教会は聖書中心でした。同様に、今日も有効な訓練学校を立てるには聖書中心でなければなりません。

## 2-1 御言葉に根ざして

この聖書中心という理念は、エルサレムの教会にも見ることができます。使徒言行録6章まで信者の数は急上昇しましたが、問題がなかったわけではありません。特に、やもめたちの世話の仕方について苦情が出ました。執事が選ばれ、この問題を任せられ、使徒たちは本来の働きからそれないようにしたのです。彼らの対応に注目してください。「そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。『わたしたちが、神の言葉がないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない……わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします』」（使徒言行録6：2、4）。

使徒たちは、有効な訓練の秘訣は聖書にしっかり根ざしていなければならないと認識していました。神は大いに祝福されました。その結果を見てください。「神の言葉はますます広まり、弟子の数は……非常に増えていき」（使徒言行録6：7）、おおぜいの祭司さえ、この信仰に入ったのでした。原則は明らかです。御言葉が広まると、信者が増える。聖書が鍵なのです。

## 2-2 御言葉をかたく守って

実際、これはイエスが至上命令の中で、私たちにせよと命じられたことです。イエスは、「命じておいたことをすべて守るように」新しい信者に教えよ、と言われました。明らかにこれは、福音書に書かれている以上のことを含みます。聖書全体がキリストのマニフェストです。イエスは聖書の各ページごとに、創世記から黙示録まですべての書を通して語られます。イエスの至上命令は聖書へ戻れとの大いなる呼びかけなのです。

さてキーワードに注目してください。「守るように教えよ」とあります。たいていの人はこの語を、従うまたは実行する、という意味だと考えますが、原語ではもっと強い意味を持っています。この語はたとえば、十字架のキリストを「見張る」兵卒の役割を表現するために用いられています（マタイ27：36）。同様に、入獄されたパウロを厳重に「見張る」看守の仕事を表現するために使用されています（使徒言行録16：23、24：23）。どちらの場合も男達がその囚人に従うように義務づけられていたのではなく、囚人を「しっかり見張る」ように命ぜられていたのです。

言い換えれば、至上命令は、どのように新しい信者がキリストの教えを心に収め、しっかりと守っておくかを教えるようにとの、私たちへの呼びかけなのです。キリストの教えを私たちの精神に固定させ、心の板に書き込み、堅く守るためにもっともよい有効な方法の1つが、暗唱聖句です。

聖書はくり返しくり返し、私たちに神の御言葉をたくわえ、主の御言葉に留まり、主の戒めを決して忘れず、心に書き記し、しっかりと覚え、そして決してはなさないようにと教えています（申命記11：18、箴言4：4、詩編119：93、箴言7：3、コリント1・15：2、ヘブライ2：1を参照）。新しい信者のクリスチャン生活スタート地点で、神の御言葉を計画的に蓄えるように助けることほど強力な手段はないと思います。

信者がいかに聖書を有効に覚えるか学ぶことを助けることについて、全教会が真剣になったら今日何が起こるかを想像してください。期待できることの一例を次に挙げます。

- ◆ 罪に勝利する。詩編119：11
- ◆ 祈りに力強さを与える。ヨハネ15：7
- ◆ 決断に明白な方向づけを与える。イザヤ30：21
- ◆ 真理に対して深い識別力をもたらす。ヨハネ14：26
- ◆ 疑問に答える能力を与える。箴言22：18-21
- ◆ 危機に対する強さをもたらす。黙示録3：10、11
- ◆ 神の御心を行う喜びをもたらす。詩編40：8

初代教会はその信者たちが御言葉に満たされていたので、生き生きとして、力にみなぎり、戦い抜く教会でした。彼らは豊かな生き方を経験していました。よき知らせを伝えていました。新しい信者はみな、御言葉をたくわえ、実践し、受け継いでいくように教えられました。その結果が爆発でした。

効力のある訓練学校を開くためには、御言葉に根ざした指導、特に暗唱聖句に力を入れなければなりません。弟子養成の鍵は単純です。御言葉を通して、新しい信者をキリストに結び、「……神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように」していただくのです（テモテ2・3：16、17）。

## 第3章 成長段階

御言葉の上に訓練学校を建てることは、理にかなっていません。クリスチャン生涯のあらゆる段階で人を導くのは聖書だからです。「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生きた言葉によって新たに生まれ」（ペトロ1・1：23）るクリスチャンになるのです。霊的幼児は「生まれたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。これを飲んで成長し、救われるようになるためです」と言われています（ペトロ1・2：2）。弟子とは、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」ことを学んでいる人々のことです（マタイ4：4）。そして働き人とは「あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者」（テモテ2・2：15）です。

成長の4段階について考えてみましょう。

- ◆ 未信者
- ◆ 霊的幼児
- ◆ 弟子
- ◆ 働き人

### 3-1 テサロニケの訓練

これらの段階はパウロがテサロニケで作った訓練学校にもはっきり見られます。パウロが成長の1つひとつの段階を説明している、重要な御言葉に注目してください。

「わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。わたしたちがあなたがたのところで、どのようにあなたがたのために働いたかは、ご承知のとおりです。そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者となり、マケドニア州とアカイア州にいるすべての信者の模範となるに至ったのです。主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア州やアカイア州に響き渡ったばかりでなく、神に対するあなたがたの信仰が至るところで伝えられているので、何も付け加えて言う必要はないほどです。」（テサロニケ1・1：5－8）

まず、テサロニケの人々はパウロの「力」ある説教を通して御言葉を聞きました（5節）。2段階目に彼らは「聖霊による喜びをもって」御言葉を受け入れました（6節）。3段階目に彼らは御言葉に生き、「すべての信者の模範となり」ました（7節）。そしてついに御言葉を「至るところで」伝えました（8節）。

- ・ 段階1 未信者は 御言葉を聞かなければならない
- ・ 段階2 霊的幼児は 御言葉を受けなければならぬ
- ・ 段階3 弟子は 御言葉を生きなければならぬ
- ・ 段階4 働き人は 御言葉を伝えなければならぬ

興味深いことに、聖書は御言葉を受けることを覚えることに結び付けています。箴言ではこの2つを次のように並べて記しています。「わが子よ／わたしの言葉を受け入れ、戒めを大切に」（箴言2：1、他に

ヨブ2:22、コリント1・15:1、2参照)。暗唱聖句は御言葉を生きるためにも有効です。詩編記者は書いています。「そこでわたしは申します。ご覧ください、わたしは来ております。わたしのことは／巻物に記されております」(詩編40:8、他に詩編119:11、マタイ4:4参照)。同様に、御言葉を伝えることは「真理とまことの言葉をあなたに知らせるために／まことの言葉をあなたの使者に持ち帰らせ」ことができます。なぜなら「それをあなたの腹に納め／ひとつ残らず唇に備えておけば喜びを得る」からです(箴言22:21、18、他にヨハネ4:34、エレミヤ20:9参照)。成長したいと熱望するならば、御言葉を暗記しましょう。

### 3-2 教会成長

教会成長プログラムの多くは伝道に力点をおいていて、実は教会を成長させることに力を入れていません。すなわち、新しい人々を教会に導くためのいろいろな方法を強調し、教会員の霊的成長には注意を払っていません。その結果、なぜこんなにわずかのしか伝道に献身しないのだろうと思うのです。よい方法は、教会員を弟子として教育することにエネルギーを注ぐことです。

「すでに何人かの信者のいるところで働くときには牧師の最初の働きは、未信者の悔い改めよりもむしろ教会員が満足に協力してくれるように彼らを訓練することである」(『クリスチャンの奉仕』、p.97)。

### 3-3 近道は遠回り

明らかに、伝道だけでは充分ではありません。訓練と結びつけて、教会員が御言葉を受け、生き、与えるように助けなければなりません。もし成長の新約聖書の段階を考慮に入れないならば、教会員があかしするための訓練さえ、しばしば貧しい結果しか生みません。たとえば、聖書研究の授け方について午後の集会を開いたとします。何人が出席するでしょうか。3、4人でしょうか。それはなぜでしょう。教会員の多くはまだ霊的幼児で、御言葉を食べるのもやっとなのです。あるいは、弟子であることに弱く、御言葉を実際に生活の中で築き上げることに苦心しているのかもしれない。彼らはまだ、働き人になる用意ができていないことを知っているのです。このような人々の当然の必要にまず応えるのでなければ、大勢を伝道者として訓練することは、不可能ではないにしても困難です。つまり、近道は遠回りです。

テサロニケはこれに比べて、物事を正しく行なえば得られる結果を指摘しています。福音は「マケドニア州やアカイア州……ばかりでなく、……至るところで伝えられている」(8節)。事実、信者の影響がその地域一帯に広がっていたので、パウロは「何も付け加えて言う必要はないほどです」と言えたのです。だれもが福音を聞いたのです。なぜこのように成功したのでしょうか。この働き人たちはまず、どう御言葉を有効に受けるか、次にどのように御言葉に則して生きるかを教えられました。それから初めて、御言葉を分け与えることができました。つまり、継続した御言葉による訓練が、霊の実を突らせるのです。

## 第4章 訓練は時間がかかる

霊的幼児は、新約時代にも今日とほとんど同じように存在しました。パウロは、キリストとの関係では乳飲み子なので、コリント人には話すことができませんでした(コリント1・3:1)。また、「わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません」と書いています(コリント1・3:2)。イエスも弟子たちに同じような問題を持っておられました(ヨハネ16:12)。もちろん、新しいクリスチャンが霊的幼児であることは何も悪くありません。問題は長い間そのままです。ヘブライ人への手紙の御言葉を見てみましょう。

「実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです」(ヘブライ5:12)。

神のご計画は、1人ひとりが最終的には御言葉を分け与えることができるようになることです。けれども多く人はそこまで進歩しません。次の聖句は理由を述べています。「乳を飲んでいてはだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません」(13節)。

神の御言葉を正しく理解するに必要な技術を獲得しなければ、その人は幼児のままになります。もし新しい教会員が、どのように御言葉を学び、暗記し、瞑想し、現実の生活に適用するかを教えられなければ、成長し損ねるでしょう。これがすべての新しい教会員に、暗記・学び・瞑想によって御言葉を「守る」よう教えることがどれほど大切かの1つの理由です。けれども、技術だけでは充分ではありません。「固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。」(14節)。

おわかりのように、技術を獲得するだけでは充分ではありません。それを使い、働かせなければなりません。最高の方法であっても、それを生かすためには時間がかかります。これが、一定の期間継続して行う訓練講座を実施することが重要である理由です。週末のワークショップではこれできません。1人の人が有能な働き人になるまでには、(特に、家庭や仕事を持っていたり、学校に行っている場合)たいてい1年くらいはかかります。訓練には時間がかかるのです。

## 4-1 忙しい人の訓練

この講座は初め、特に忙しい時代に住む人々にとっては圧倒されそうになることでしょう。幸いにも神はこの問題に対して名案を備え、霊的研究のために特別の時間を設定してくださいました。その時間こそ安息日に他なりません。

初めから神は、きよい目的のために7日目を祝福し、聖別されました。それは信徒たちが集まり、世のわずらいから離れる日であり、忙しい人々を守る永遠の保護機能でした(創世記2:2、3、レビ記23:3、出エジプト記20:8-11、イザヤ66:22、23、他を参照)。安息日の原則は新約時代も同様です。「それで、安息日の休みが神の民に残されているのです」(ヘブライ4:9)。また神が終末時代の人々を聖めるために用いようとされるのも、この特別な時間帯なのです(エゼキエル20:12参照)。パウロの安息日の用い方を次の聖句で見てください。

「パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い」(使徒言行録17:2)。

「パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた」(使徒言行録18:4)。

ある安息日、アンテオケの会堂で説教が終わると、ギリシア人たちが頼みました「パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるように頼んだ」(使徒言行録13:42)。この人たちが週日は働いていたからか、またはパウロ自身が忙しかったからか、彼は待つことに同意しました。

「集会が終わってから、多くのユダヤ人と神をあがめる改宗者とがついて来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みの下に生き続けるように勧めた。次の安息日になると、ほとんど町中の人々が主の言葉を聞こうとして集まって来た」(使徒言行録13:43、44)。

同様の状況は今日もあります。もし働き人を養成する時間を見つけたければ、霊的学習のためにすでに神に区別された時間を使うよう、パウロの方法を真似るのが賢いのです。

## 4-2 安息日学校

ほとんどの教会では、礼拝前にSSガイドの時間を取っています。この時間を有効に使うことができます。

「安息日学校は、神との生きたつながりを通して、男も女もよく準備されて、教会の力と祝福となる場所になります」。「安息日学校が果たす役割はたくさんあり、彼らの義務を自覚し実践するように導かなければなりません。神は、主のために働くように彼らを召しておられます」(安息日学校への勧告、p.11、83)。

訓練を安息日に合わせて行う1つの利点は、週日を伝道のためにあけておきやすいことです。パウロの方法は安息日を訓練に、他の週日をあかしに用いることだったようです。彼は「それで、会堂ではユダヤ人や神をあがめる人々と論じ、また、広場では居合わせた人々と毎日[他の週日]論じ合っていた」(使徒言行録17:17)。私たちのゴールが働き人の訓練なら、彼らの時間を伝道のために取っておかなければなりません。

## 第5章 献身の鍵

訓練に適切な時間を取り分けることは、訓練に着手する上で重要です。しかしこれは問題の半分にすぎません。もう半分はこれを継続することです。別な言い方をすれば（おそらくもっと正確には）着手の段階はまだまだ全体のわずからパーセントにすぎず、残りはやり遂げることです。有効な訓練学校を設立するためには、聖書は「献身」について何と教えているかを理解することが重要です。

### 5-1 心でスタート

聖書には「献身」なる語は見られませんが、イエスはこのテーマでたくさんのお話を話されました。

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠の一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う」（マタイ13：44-46）。

この2つのたとえ話に登場する男たちは献身を表しました。彼らは持っていた物を喜んで全部売りました。彼らは望みの物を得るためにどんな値でも喜んで支払い、欲しかった物を手に入れることに成功しました。これらのたとえ話から、献身は成功へ導くこと、また人に成功への代価を払う動機を与えることが重要であるということがわかります。

つまり、献身は人を成功へ導く鍵なのです。さらにいえば、献身とは、対象物の価値を正しく見極めることから始まる、ということです。一番目の男は畑の宝の価値を知っていたので、持ち物全部を喜んで売り払いました。同じく商人も真珠の価値を知っていたので、あらゆる犠牲を払いました。正しく価値を把握することができる時、献身が伴うのです。

長期間の訓練プログラムを遂行する鍵は、その訓練の価値を把握することです。数百もの聖句をすらすらと口にすることができる姿を想像してください。まじめで勤勉な弟子としての生き方を実践することができる姿を想像してください。友だちに信仰を伝え、質問に聖書で答え、決心へと導くことができる姿を想像してください。信仰の仲間が育ち、弟子になり、霊的成長を見ることができている状況を想像してください。キリストに寄り添って歩み、主の重荷があなたの重荷となり、主と絶えざる交わりのうちに生きることができている姿を想像してください。このような訓練は、なんとすばらしい出来事をもたらすことでしょう。この価値を得るために、あなたはどんな値をも喜んで支払うことでしょう。しかし、追い求めている「対象物」を見失ってしまったら、あなたは魂を失うようなものです。あなたの前にあるゴールを見てください、そうすればあなたはやり遂げることができるでしょう。

### 5-2 互いに励ます

聖書はもう1つの鍵を示しています。「あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、『今日』という日のうちに、日々励まし合いなさい。……わたしたちは、最初の確信を最後までしっかりと持ち続けるなら、キリストに連なる者となるのです。……」（ヘブライ3：13、14）。賞は最後まで達成する人々に与えられますが、多くの人々はゴールのすぐ手前でやめてしまいます。罪は非常に巧妙に私たちを欺き、失望させ、注意を散漫にさせます。しかし幸いにも神は解決法を備えてくださいました。励まし合いです。私たちは「互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょ。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合」（ヘブライ10：24、25）わなければなりません。終わりに近づくほど互いの励まし合いがますます必要になっていきます。

チームとして成功するために、互いの影響の大きさを理解しなければなりません。各人は模範と言葉で、グループの他の人を励ます責任があることを覚えなければなりません。各人が自分の最善を尽くし、他の人々が最善を尽くすのをうながすことによってはじめて、グループ全体がその可能性に達するからです。

### 5-3 費用を見積もる

献身はいろいろな面で表されます。集会に時間通り来ること、個人の聖書研究を忠実に仕上げておくこと、決められた聖句を覚え、完全に言えること、グループの話し合いに参加すること、仲間のために祈ること、これら全部が重要です。あなた個人の献身の足りなさは、仲間の気持ちをなまぬくし、最善を尽くす決意を弱めることとなります。それに比べ高いレベルの献身は、あなた自身を一生懸命にさせ、他の人々のやる気も高めるのです。個人的な影響力を決して軽視しないでください。

訓練プログラムに参加する前に、費用を見積もってください。すなわち、自らの払うべき犠牲のコスト計算してください。「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか」(ルカ14:28)。あなたはどうか？ あなたはイエス・キリストの働き人になることに、どれほどの価値をおきますか？ ほんとうに主に従うことの費用を、喜んで支払うつもりがありますか？ あなたの個人的な影響力を理解し、グループの人々の模範になり、ベストを尽くすよう励ます決心をしていますか？ あなたは献身していますか？

あなたはさらに完全な訓練を強く求めていますか？ 御言葉に固く根ざした訓練、霊的成長の1つひとつの段階をどれも跳ばさずに踏んであなたを成長させる訓練、あなたの忙しいスケジュールにプログラムを取り入れ時間をできるかぎり伝道にささげるようなプログラムを探していますか？ 献身を求めるプログラム、最善を尽くすようチャレンジするプログラムを探していますか？ もしそうならあなたは主の召命を聞いたのです。

#### まとめ

- ◆ 初代教会は、伝道に訓練を合体させることによって爆発的に成長した。
- ◆ 教会は訓練センターになるべきである。
- ◆ 聖書は効果的な訓練の基礎である。
- ◆ すべての信者は聖書を効率的に覚えるように教育されるべきである。
- ◆ 働き人の成長には4段階がある。
- ◆ 伝道は人に御言葉を聞かせるが、訓練は御言葉を受け・生き・分かち合うようにさせる。
- ◆ 弟子として成長するためには徹底的な訓練を要する。近道は失敗に導く。
- ◆ 霊的に成長するためには御言葉の中から方法を見つけ、それを活用しなければならない。
- ◆ 働き人になるには時間がかかり、しばしば1年以上の歳月がかかる。
- ◆ 安息日学校は訓練の目的に理想的な場である。
- ◆ 献身は、私たちが対象の価値を正しく知る時に、備わるものである。
- ◆ 互いの励まし合いは、チームの献身を維持するために必要である。
- ◆ 訓練プログラムに参加する前に、費用を見積もるべきである。

もし上記の原則を納得できれば、あなたは召命を聞いたのです。神は、主のための有能な働き人になる目標に向かって進む男女を求めておられます。神の祝福が、あなたの上に豊かにありますようにお祈りいたします。